

授業案フォーマット

授業タイトル： 食ルートを追究せよ！

子どもの設定：

●地域の特徴

・海や山に囲まれ自然豊かな環境にあるが、現在では以前に比べ農業・漁業の後継者不足・従事者の高齢化に伴い、第一次産業が衰退している(※参照)。そのような状況において、子どもたちは次世代を担う存在として地域住民・保護者から期待されている。それは教師自身・子どもたちが参加する地域の餅つき大会などの交流会、保護者会に参加した人々と話し、教師が日々感じていることである。

→※ 農業従事者 平成2年 19,689人 ⇒ 平成17年 7,245人

漁業従事者 昭和63年 1,724人 ⇒ 平成15年 873人

●学年

・小学校5年生

●子ども達の構成

・1学級30人 男子15人 女子15人

・多くの児童が幼稚園からの友人であるため、男女間の隔たりもなく、授業中には友人同士で教え合いをしたり、休み時間にはクラス全員がドッジボールなどの団体競技したりする姿が見られ、クラス全体仲が良い。

・子どもたちの家族構成は6割が親子3世帯で暮らし、4割が核家族世帯である。一人っ子の子どもたちは1割で9割は兄弟姉妹がいる。

・保護者の職業は5割がサービス業などの第三次産業、5割が農業・漁業などの第一次産業である。

教師の問題意識

現代は物があふれ、欲しいものがあれば苦勞せずなんでも手に入る時代となっている。そのような状況下で、私たちが口にする食べ物も、材料がそろっている以上に様々な形で加工された食品が数多くスーパーやコンビニエンスストアにそろっている。そのため、近年の子どもたちは自分たちの口に運ばれる食べ物がどのようなルートをたどってスーパーに並んでいるのかを知らず、食べ物を大切にしようという気持ちや食に対する感謝の気持ちが薄れていると考えられる。5年1組の生徒もその影響からか、給食を半分以上残すような状況がみられる上、給食時に立ち歩く様子が見られたり、嫌いな食べ物で遊んだりなど食事のマナーが悪い。

そのような状況を踏まえ、子どもたちには今回の授業で、食べ物がどのようにして作られるのかを体験学習を通して感じてもらいたいと考える。そうすることで食べ物を作ることの大変さや難しさを感じることができ、食べ物に対する感謝の気持ちが育まれると考えるからである。また、これをきっかけに自分たちの地域の特産(第一次産業)に関心を持たせ、「次世代を担ってほしい」という地域の期待に応えていける子ども達を育てたいと考える。

授業目的： (目に見えなくても構いません)

上記のような状況を踏まえ、今回の授業では食べ物への感謝(食べ物の恵み・栽培している人への感謝・調理している人への感謝)の気持ちを持たせる。また、第一次産業の重要さを感じ、地域の特産に関心を持たせる。

子ども達の到達目標： (目に見える具体的なものにします)

1. 地域の特産品をいくつかあげることができる。
2. 食べ物の作られ方を食ルートマップにまとめ、説明することができる。
3. 生産者の方や調理をする人の思いや願いを読み取り、発表することができる。
4. 食に対する考え方を改め、クラス目標に食に関する内容を入れるようになる。
5. 食べ物を作るときの工夫や生産者の方々の大変さに気付き、その気持ちを感謝の手紙として書くことができる。

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要
 (達成目標をクリアするのに必要なだけの授業を計画します)

授業回数	テーマ	各授業での子ども達の具体的な達成目標
1	給食ができるまでを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が口にするまで、食べ物は様々な人(生産者や調理士など)によって手がかえられていることや、思ったことを文章で表現することができる。 ・給食で使われている食材の中に地域で生産された食材(特産品)を見つけ、書くことができる。
2～3	特産品を調べよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品の中で、各班で自分たちが調べたい食べ物について話し合い、クラスの前で発表することができる。 ・特産品である野菜や加工品・生肉などがどのような過程で作られているのか本やインターネットを使って調べることができる。 ・給食の中に含まれている地域の特産品を、いくつかあげることができる。 ・調べた内容をまとめ、発表することができる。 ・次回の体験で、誰に何を質問するのかをワークシートにまとめられる。 ・各班でそれぞれの役割分担を果たすことができる。
5～7	実際に見学・体験をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の漁港・農業の半日体験、生肉加工工場の見学で、積極的に、気づいたことや考えたこと、思ったことをワークシートに書くことができる。 ・地域の方に積極的にインタビューし、インタビューした内容をワークシートに記録することができる。
8、9	体験のまとめをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが体験したことについて、各班で食ルートマップを作成することができる。 ・生産者の方の思いや気持ちを読み取り、インタビューした内容を写真や資料を用いて画用紙にまとめることができる。
10～12	まとめたことを発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたこと(具体的な資料やグラフ、写真などを用いて)を発表することができる。 ・体験で自分たちの考えたことや思ったことを発表することができる。
13	食べ物に対する考え方を見直そう	<ul style="list-style-type: none"> ・食に対する考え方で変化したことを、いくつかまとめることができる。 ・クラス目標に、その変化した見方を反映させることができる。 ・地域の産業が自分たちの食生活を支えていることに感謝し、それぞれ体験でお世話になった方々に感謝の手紙を書くことができる。

本時の授業：上記の表の1回目の授業(模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします)

本時の授業でのポイントや指導上の注意点：

今回の授業では、当たり前前に食べてきた給食は、栄養士の方々や給食室で調理をしてくださる方々の苦労や工夫があることに気づかせる。小学校5年生であるため、調理士の方や栄養士の方が自分たちを支えていることは理解できるが、児童全員分の給食の量を作り、配膳する大変さなど具体的な仕事内容までは理解できていない。この実態を考慮し、児童が自由に討論できる環境をつくり、児童の考えを引き出していく。ま

た、授業のねらいが押さえられるよう、DVD などを見る際は着眼点などについて指示や発問をする。

そして、感謝の気持ちが「給食の方（調理する段階）」で終わることのないよう、授業の最後には「農家や漁業（食べ物の栽培段階）」にも目が向けられるよう配慮する。

授業方法：なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

指導に当たっては、児童が体験的に感じられるよう、地域の漁港や農家を訪ね、実際に生産から収穫までを行わせる活動を取り入れたい。さらに、食ルートマップを作成する活動や、生産者の方の思いや願いを知り、感謝の手紙を書くことで、食を通して、地域の人とつなげていく。

導入：児童たちにとって共通の食である給食を話題に取り入れることで、身近に感じ、自分たちに関わる問題という意識を持たせる。

DVD：教師の話聞くだけでなく、実際に栄養士の話聞く事によって食に関して児童が身近に感じ、興味関心を駆り立てることができる。また、流れている映像の中で、調理道具や具材の量、配膳する大変さ、調理師の方や栄養士の方が様々な工夫をしていることに気づいてほしい。

本時の授業：

流れ	教師の指示内容	教師の動きなど	時間
導入	<p>1. 今日の給食を振り返る。 ・給食のメニューから、具体的に給食の素材を確認する。 T「今日の給食のメニューは何でしたか？」 C₁「味噌汁」 C「さかな(さんま)」 C「ご飯！」 T「では味噌汁に使われている材料（具）は何でしたか？」 C₂「ほうれん草」 C「わかめ」 C「豆腐」 T「お味噌汁だけでも様々な野菜が入れていることがわかりますね。こんなにたくさんの野菜や材料を使っているけど、給食って簡単に作れるものなのかな？」</p>	<p>・児童の集中を一点に向けるよう、集中していない児童に対し発問したりする。</p>	3分
展開	<p>2 調理士さん・栄養士さんへのインタビュー内容をDVDで見る。 （実際の模擬授業では学生が栄養士役をする） T「先生は今日、給食を作ってくれている調理の方や、献立を考えてくれる栄養士さんにインタビューをしてきました。その内容を DVD にしたので見てみましょう。」</p>	<p>・関心が向かない子には注意を促し、映像に集中できるよう声かけをする。</p> <p>・ワークシートを配る</p>	5分
	<p>3 DVD を流す T「これから DVD を流します。給食を作っている人が言っている事、また給食室内はどんな様子なのかなど、気付いた点や驚いた点、初めて知った点などをしっかりワークシートにメモしましょう。」 ・DVD 終了後、1分時間をとりメモを整理させる</p>	<p>・メモをとっていない生徒がいたら声掛けし活動を促す。</p>	5分
	<p>4 映像から、知ったことや驚いたことを各班で発表し合う。 T「まず、この DVD から初めて知ったこと・驚いたことはどんなことでしたか？班になってお互いに発表し合しましょう。」 C¹「調理道具や具材の量に驚いた。」 C²「給食作ることがあんなに大変だとは思わなかった。」 C³「栄養士さんは栄養バランスだけでなく、沢山残らないように美味しさにも気を使っていることがわかった。」</p>	<p>・わかりやすく、簡易的な一連の流れを模造紙にまとめておく。</p> <p>・班体制を作り、発表させるが発表に参加していない児童には注意をする。</p>	5分
	<p>5 班で出た意見を画用紙に書かせる。 T「今から画用紙を配ります。話しあってわかったこと、気付いたことを1枚に1つ書きましょう。」</p>	<p>・予め、画用紙とペンを用意し、各班に配る。</p>	5分
<p>6 わかったことを班ごとに前に出て発表し、紙に書いたことを黒板に貼らせる。 T「では1班から発表してもらいます。」 C¹「1班では、給食がつくられるまでに、とても長い時間がかかっているこ</p>		9分	

総合的な学習の時間
「食べ物を追究せよ！」



～給食室を追究せよ！～

5年1組 _____ (班)

1. DVDで知ったこと、驚いたことなど発見したことをメモしましょう。
(例：～がわかりました。～に気がきました。という形で書きましょう。)

2. DVDや班の発表から、考えたこと学んだことを書きましょう。

